

組織としての力を生かした 学力向上の取組を充実させましょう



各学校では、学習過程スタンダードを基にした授業改善や家庭学習の充実など、自校の重点とする取組を中心に学力向上対策が進められています。

本リーフレットでは、学校訪問の様子や全国学力・学習状況調査の結果分析等を踏まえ、西部教育事務所学力向上グランドデザインで示している「全校体制による学力向上」の視点から、成果をあげている学校の取組をまとめました。これらの取組を参考にして、組織的な学力向上の充実に努めましょう。

ポイント1 組織と意識

“課題や方策”を理解し、組織的に取り組んでいますか？

【チェック項目】

- 全国学力・学習状況調査結果を分析し、成果や課題を共有
- 共有した成果や課題を学校の日常の授業に反映
- PDCAサイクルで取組を学校全体で評価・改善

全国学力・学習状況調査や、学校評価アンケートの分析結果を基に、学力向上委員会で改善策を協議し、実践しています。

“課題や方策”を共有し、
教職員の学力向上に対する参画意識を高めましょう。



ポイント2 授業改善

学校の“目指す授業像”を明確にし、実践していますか？

【チェック項目】

- 課題解決に向けた子ども主体の授業づくり
- 管理職による日常的な授業参観
- 校内外の研修の成果を全教職員で共有

- 小学校…発言や活動の時間を確保した授業づくりをしています。
- 中学校…学校全体の言語活動の実施状況や課題等について全教職員で話し合っています。

授業を参観し合うなど“目指す授業像”を共有し、
ねらいの達成に向けて深く考える授業づくりを進めましょう。



ポイント3 家庭・地域連携

“家庭”や“地域”と連携していますか？

【チェック項目】

- 保護者と連携した家庭学習の取組
- 地域人材を活用した授業の実施
- 評価資料集の計画的な活用(小学校)

家庭と連携して低学年から段階を踏んで家庭学習に取り組みせたり、学校支援ボランティアを授業などの教育活動に活用したりするなど、全校体制で家庭や地域と連携した取組を推進しています。

“家庭”と連携し、学習習慣を定着させましょう。
“地域”人材を活用しながら学力向上を図りましょう。

